

平成29年度 佐賀学園高等学校 学校評価計画

1 学校教育目標

校训である「創造」「躍動」「貢献」を具現化するために、生徒一人ひとりが相互並びに教職員との信頼を基にした人間関係を構築し、知性を磨き、個性豊かで、志高く、建学の精神「産業界の第一線に貢献する人材の育成」を目指す。

2 学校経営ビジョン

- ①県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。
- ②基本的学習習慣の定着及び周りの人への思いやりをもった心豊かな生徒の育成を目指す。
- ③生徒一人ひとりの学力・人間力を伸ばし、すべての生徒の進路保障を目指す。
- ④部活動の奨励と充実を図り、全国で活躍できる生徒の育成を目指す。

3 本年度の重点目標

- 2万人を超える卒業生によって築かれた伝統を継承するとともに、更なる学校の活性化に向けて全職員が一丸となり、「生徒一人ひとりに寄り添い、伸ばす教育」の実践を行い、社会で活躍する人材を育成するために、次の8点を重点目標に掲げ、生徒の「人づくり」のために邁進する。
- ①基本的学習習慣を定着させ、授業・部活動・学校行事および生徒との面談等を通して生徒の内面への指導を充実させ、遅刻・欠席・問題行動・転退学者の減少を図る。
- ②分ける授業の実践および基本的学習習慣の定着を図ることで基礎学力の定着と学力向上に繋げ、学校生活の充実を図らせる。そして、進路実現100%を目指す。
- ③ボランティア活動の推進、生徒の服装容儀等のマナーアップにより、地域に信頼される学校づくりを目指す。
- ④学校行事、学年行事、ホームルーム活動の充実により人間力の向上を目指す。
- ⑤生徒一人ひとりの個性を大切に、また、家庭との連絡を密にするなどきめ細かな指導で、入学させた生徒全員を卒業させることを目指す。
- ⑥商業系生徒の資格取得の向上、特に英語検定の上位資格取得を目指す。
- ⑦清掃活動を重視し教育環境の整備に努める。
- ⑧部活動の加入率を向上させ、各種大会で上位を目指す。

4 前年度の成果と課題

生徒募集は対策室をはじめ教職員の努力で目標値をクリアすることができたが、佐賀市内中学校からの生徒の確保については厳しい状況が続いており、地域から信頼される学校として、更なる教育内容の充実、生徒の服装や立ち振る舞いの改善が急務である。マナトレをはじめ基礎学力の定着と成績高等部の学力向上は昨年引き続き課題が残った。授業をはじめ生徒指導面で教師が生徒と真に向き合う姿勢の構築が必要である。
平成29年度は、地域から信頼される学校を目指して、生徒の学力向上とマナーアップ(服装と立ち振る舞い)が最重要課題である。基礎学力の定着を含む学力向上のために教師及び生徒が共に真剣に授業に取り組むこと、マナーアップのために生徒の自覚喚起および全職員が徹底して生徒の指導に当たり本校のイメージアップを図ることが必要である。また、部活動の実績向上を目指す。

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	学校経営方針	・本年度の重点目標を生徒・保護者に周知し、重点目標に積極的に取り組めたか。 ・重点目標に従い、各分掌等で具体的な行動目標を掲げ実践できたか。 ・各分掌等の目標達成に向けて、定期的に進捗状況を把握できたか。 ・職員の資質向上が図れたか。	・重点目標を知っている生徒・保護者の割合を80%以上にする。 ・重点目標の取り組みについて、生徒・保護者が「非常に良い」「良い」の評価を80%以上にする。 ・分掌・学年が決めた目標達成に向けて部長・主任へのアドバイスを頻密に行う。 ・職員研修の機会を増やす。また、授業見学を行い、職員との面談の機会を多くもつ。	・全校集会、振興会総会、学校通信で重点目標を生徒・保護者に知らせる。 ・各分掌部長と学年主任に対して月毎に面談し進捗状況を踏まえ目標達成に向けた取り組みを強化する。 ・初任者研修で若手職員の育成、授業見学によりベテラン教員の更なる充実を図る。
	生徒募集 (広報活動)	・本校のセールスポイントを中学生とその保護者に正しく伝えられたか。 ・受験者数の増加につながる募集活動が行えたか。	・パンフ、チラシ、パワーポイント、DVDで他校保護者に正しく伝えられたか。 ・受験者数の前年度比110%、専願入学者180名を目標とする。	・種々の募集関連事業の実行委員会を設け、共有と協働を基本に戦略を練る。 ・新校舎、部活動、資格取得、進路保障を全面的にアピールする。 ・女子中学生を対象とした募集の展開を行う。
	学校事務	・校内の施設利用に当たり、生徒・職員の安全安心は確保できるか。	・校内の各教室、各設備等を利用するに当たり、不具合等はないか確認する。	・不具合等が確認された場合には、充分に検討を行い、改善へ向け対応する。
	職員の指導力向上	・社会の変化に対応した教育の実践ができたか。 ・内容が濃く、わかりやすい授業ができたか。	・佐賀県教育センターの教育相談・生徒指導に関する講座、特別支援に関する講座等専門講座や公開講座の中から3年間で1回以上を受講する。 ・生徒が充実感を味わえるような授業を展開し、授業改善アンケートの評価を参考に研鑽に努める。	・職員研修会を各校務分掌で企画する。教育センターの研修講座に15名以上参加する。 ・各教科での授業研究会を開催する。 ・職員相互の授業参観を活性化し、授業の質を向上させる。
教育活動	学力向上	・基礎的知識と技能の修得が図られたか。 ・進路を見据えた学力が定着したか。	・「規律ある授業」の確立と「生徒の興味関心」に繋がる分かる授業を展開する。 ・家庭学習の習慣化と進路に対応できる学力を定着させる。	・学習規律を定着させる。 ・各教科を機能させ「分かる授業」のための手立てを研究し、共通理解のもとで実践する。 ・平時より課題を課し、評価する。
	進路指導	・進路を実現するための基礎学力ができたか。 ・発達段階における進路意識が、具現化するまでの意識に繋がったか。 ・進路ガイダンス等がキャリア教育に生かされたか。 ・希望進路が具体的な進路保障に繋がったか。	・進路指導講話や、外部教育力を生かした進路意識の向上を図る。 ・受験に対応した学力と基礎力診断テストによる学習力(GTZ)の向上を図る。 ・成績高等部を牽引力とした国立大学合格者数増加を目指す。 ・就職内定率100%を達成する。	・進路調査、適性検査などで個々の客観的データを分析する。 ・三者面談、オープンスクール、企業研究等により、ミスマッチのない進路指導を行う。 ・就職希望者の学力向上対策セミナーを実施する。 ・担任によるFINE SYSTEMの活用により具体的な指導を活性化させる。 ・新規企業開拓、企業訪問を例年通り実施する。
	生徒指導	・制服の着こなしは正しくできているか。 ・校内外で正しいマナーが守られているか。 ・他人に迷惑をかけていないか。	・制服を正しく着用する。 ・いつでもどこでもマナーアップの意識を持つ。 ・他人・仲間誰とでもコミュニケーションを図り豊かな人間性を目指す。	・教員主導だけでなく生徒会をリーダーとする生徒目標での服装整備を目指す。 ・内部的な指導を行いながら、マナーアップに努めさせる。 ・常に、意識を向上させる。
	環境美化	・新校舎の最初の状態が維持されるか。 ・ゴミの分別収集ができたか。 ・校内美化の意識が向上したか。	・新校舎の最初の状態を維持する。 ・各クラスでのゴミの分別を強化する。	・清掃用具を充実させる。 ・美化コンクールなどにより校舎使用のマナーやモラルの向上を図る。 ・ゴミ袋の記名を徹底する。
	課外活動	・仲間と切磋琢磨し、社会性や強い精神力を磨き、人間性を高めることができたか。	・部活動加入率70%を目指して、担任・顧問との連携を密にし、各部活の部員数を増加させる。 ・各種大会で優勝を目指し、上位進出を果たす。	・部活紹介を工夫し、生徒に興味を持たせる。 ・文武両道が実践できるように部活動の質を高める。
特定課題	長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	所属学級担任・授業担当者・教科担当者・学年主任と教育相談係りで連携を図り生徒への対応が充分に行えたか。	・精神的安定が保たれ、生徒自身が学校への関心をもち、所属学級へ戻るよう努力する。 ・教育相談室全体が、学習に取り組む雰囲気づくりを行い、学力向上を図り、生徒に自信をつけさせる達成感を味わわせる。	・職員の連携を図り、カウンセリングを充実させ心の関心をもち、所属学級へ戻るようサポートする。 ・所属学級の教科担当者や連携を図り、教材の準備や個別指導を充実させ、学力を向上を図る。
	礼法教育	・コミュニケーションの基本である挨拶、言葉づかい、面接マナー等が充分であるかどうか。	・学年進行で積み重ねていき、3年次の進路面接に活かすと共に、社会人になってもすぐに活かせることを目指す。	・机上学習で学び、礼法室での実技を通し体得させる。
	生徒会活動	・校内外の問題を自分たちで考え、主体的に行動できたか。	・学級活動や各種委員会活動を活発に行い、学校全体のマナーアップを図る。	・生徒の意見に積極的に耳を傾け、関連分掌・学年・学級との連携を図る。
	キャリア教育・マナトレ	・毎日のマナトレの内容を理解させて基礎学力を身につけさせることができたか。 ・インターンシップを将来への進路選択へ結びつけることができたか。	・マナトレを活用することでGTZの値がD2ゾーン以上の学力に達することを目標とする。	・マナトレのより良い活用方法を常に研究して生徒の学習のフォローアップを図る。認定テストの分析、ICTの活用などを行うことで学力向上を図る。 ・キャリアノートやインターンシップを活用することで進路保障に結びつけることができるように指導の充実を図る。